

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成17年10月20日(2005.10.20)

【公開番号】特開2004-157734(P2004-157734A)

【公開日】平成16年6月3日(2004.6.3)

【年通号数】公開・登録公報2004-021

【出願番号】特願2002-322419(P2002-322419)

【国際特許分類第7版】

G 0 7 D 1/00

A 6 3 F 7/02

A 6 3 F 9/00

【F I】

G 0 7 D 1/00 G B L A

A 6 3 F 7/02 3 5 2 N

A 6 3 F 7/02 3 5 2 P

A 6 3 F 9/00 5 1 2 B

【手続補正書】

【提出日】平成17年6月16日(2005.6.16)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

係止部(15)を有するディスク(D)の送り出し用の回転ディスク(114)、前記回転ディスク(114)の側方に配置された第1ガイド(124)、前記第1ガイド(124)及び前記回転ディスク(114)の側方に位置し、第1ガイド(124)から前記ディスク(D)の直径以下の距離離れた待機位置(S)と前記ディスク(D)によって移動される払出位置(P)とに移動でき、かつ、ディスク通過センサ(138)を構成する第2ガイド(127)、前記第2ガイド(127)の移動に連動して前記係止部(15)の移動経路(20)に突出するストッパ(28)と、を有するディスクホッパの不正防止装置。

【請求項2】

前記回転ディスク(114)は、等間隔に形成された複数の通孔(115)と、回転軸線(13)を中心とする円(14)上に形成され、かつ、前記通孔(115)に相対して形成された複数の係止部(15)を有する請求項1のディスクホッパの不正防止装置。

【請求項3】

前記係止部(15)は、回転ディスク(114)の下面(12)から下方に向かって突出する突起である請求項2のディスクホッパの不正防止装置。

【請求項4】

前記係止部(15)の一部が平面(16)であり、かつ、前記ストッパ(28)の一部が平面(29)であり、それら平面どうしが面接触可能である請求項2のディスクホッパの不正防止装置。

【請求項5】

前記第2ガイド(127)と前記ストッパ(28)が一体に形成され、前記第2ガイド(127)が前記第1ガイド(124)に近づくよう弾性的に付勢される請求項1のディス

クホッパの不正防止装置。

【請求項 6】

前記第 2 ガイド ( 1 2 7 ) と、前記ストッパ ( 2 8 ) と、ディスク通過センサ ( 1 3 8 ) の作用片 ( 1 3 6 ) が一体に形成され、前記第 2 ガイド ( 1 2 7 ) が前記第 1 ガイド ( 1 2 4 ) に近づくよう弾性的に付勢される請求項 1 のディスクホッパの不正防止装置。

【請求項 7】

前記第 1 ガイド ( 1 2 4 ) が実質固定状態である請求項 1 のディスクホッパの不正防止装置。

【請求項 8】

前記ストッパ ( 2 8 ) を有する第三レバー ( 2 7 ) が、フレキシブル接続部 ( 3 1 ) を有する請求項 1 のディスクホッパの不正防止装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 5】

また本発明は、前記第 2 ガイドと前記ストッパが一体に形成され、前記第 2 ガイドが前記第 1 ガイドに近づくよう弾性的に付勢されることが好ましい。

この構成によれば、第 2 ガイドとストッパが一体であるので、第 2 ガイドの移動によってダイレクトにストッパが移動される。

したがって、第 2 ガイドの移動に連動して回転ディスクを確実に停止することができる。

また、構成部品が少ないので、安価に製造出来る。